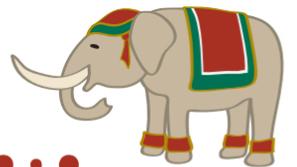


バンコクと八千代の友情の架け橋

未来へ続く こども親善大使の交流



▲5月19日、ふれあいプラザで開催されたダイラックアン主催のウェルカムパーティー

5月15日から22日まで、バンコクこども親善大使12人を含む訪問団一行が本市を訪れました。この国際文化交流事業は平成元年に始まり、途中コロナによる中断もありましたが、昨年度から再開。これまでにバンコク都から314人、本市から330人のこども親善大使がお互いの国を訪問しており、交流を通じて両国は固い絆で結ばれています。

八千代台東小学校の学校交流会では 書道体験や民俗衣装で踊りを披露

八千代台東小学校の訪問では、全校生徒が校庭で両国の国旗を振って歓迎しました。

書道体験では「輝」や「夢」などの漢字を真剣な表情で書き上げ、日本の文化を体験しました。生徒たちは代わるがわるこども親善大使の周りに集まり「上手だね!」と声をかけたり、はやりの歌を歌って笑いあったりと、書道体験が終わるころにはすっかり打ち解けていました。また、休み時間には校庭で鬼ごっこや、だるまさんが転んだをして一緒に遊びました。

午後には歓迎式典が開催され、八千代台東小学校の生徒から民謡の八木節が披露されました。バンコクこども親善大使は、美しい飾りがついた衣装と大きな扇子を使ったバンコクの伝統的な踊りを披露しました。

帰りは八千代台東小学校の全校生徒が校庭で花道を作り、親善大使を見送りました。



▲華やかな衣装と揺れる扇子で優雅な踊りを披露

消防署体験

世界一渋滞する都市と言われるバンコクでは、小型の消防車が多く、大型の消防車を見

る機会が少ないと言われています。

市民の安全・安心な暮らしを守っている八千代市中央消防署を訪問し、大型消防車の見学やはしご車の乗車体験などを行いました。普段近くで見ることがない車両を間近で見学することができ、こども親善大使は目を輝かせて体験を楽しんでいました。

滞在中はこのほかにも、茶道連盟の皆さんの協力で茶道の作法を学んだり、春バラが満開のやちよ京成バラ園を見学したりしました。



▲はしご車に乗って空から八千代市を見学しました

子どもたちの想いが形になった ダイラックアンとテップウタイ

平成元年の国際文化交流事業開始に合わせて、本市からも八千代こども親善大使をバンコク都に派遣しています。こども親善大使たちは、出発前から自分たちの役割、両国の文化の違いや、タイ語のあいさつなどを学んで準備します。多くの人々と出会い、異国の文化に触れることで、お互いを認め合うことの大切さに気づき大きく成長します。

平成16年4月、バンコクの人たちといつまでも交流を続けたいという思いから、有志によるOGOB会「ダイラックアン」ができた。

した。「ダイラックアン」とは、タイで旅の安全や幸せを祈って手首に巻いてくれる白い糸のことです。自分たちが訪問した際、バンコクの人が歓迎し巻いてくれたことに感動し、この名前が付けられました。バンコクこども親善大使も、“東の国よ永遠に”という意味の「テップウタイ」を結成し、今でも途絶えることなく交流が続いています。

今回のバンコクこども親善大使の受け入れでは、ダイラックアン主催のウェルカムパーティーがふれあいプラザで行われました。このパーティーは、親善大使としての緊張が少しでも和らぐように、ホストファミリーと一緒に参加してもらい、ゲームなどをしながら過ごします。今回は玉入れやドッジボールなどで遊び、夕食も一緒に食べて交流を深めました。

絆の継承とバンコク訪問

国際文化交流事業が始まってから約35年が経ち、バンコクと八千代の絆は途切れることなく継承されてきました。歴代の八千代こども親善大使の中には、今でもこの交流事業に携わっている人もいます。これまで築き上げてきた絆を、より一層強く次の世代に引き継いでいくために、市はこれからも国際文化交流に取り組んでいきます。

来年1月には、八千代こども親善大使12人がバンコク都を訪問します。今回も一生忘れることのない、大切な人たちとの出会いが待っていることでしょう。

お問い合わせは
シティプロモーション課
☎421-6703へ

広告

広告